



日本人の心「ATRIMAE の精神」

校長 平岡 淳

今年は 4 年に一度のサッカーワールドカップ(W 杯)がアメリカ、カナダ、メキシコで行われ、日本代表の戦いに日本中が湧きました。前回(カタル大会)は目標をベスト8と掲げていましたが決勝トーナメント1回戦で敗れ、今回は「優勝」を目標として掲げていましたが、強豪国ブラジルに惜敗しました。深夜の熱戦でしたが、多くの人々が選手の戦う姿に胸を熱くしたと思います。粘り強く守り抜く姿、日本代表の特徴であるスピードを生かした攻撃、最後まであきらめず走り切る姿勢など、映像からたくさんの感動をもらいました。サッカー日本代表の姿から感動するのは、プレーの姿だけからではありません。4 年前のカタル大会で世界中に大きな反響を与え、今回の大会でも話題になったことを振り返ります。

まず一つ目は敗戦が決まった直後の森保監督の行動です。ある記事には「森保監督は会場に集まってくれたサポーターに向かい、手のひらを胸にあてた後、胴体を 90 度に折り曲げたこの(お辞儀)はファンへの感謝の気持ちと、チームの敗戦に対する謝罪の気持ちを込めたものだ」「わざわざ現地まで応援に駆けつけてくれたファンへの感謝の気持ちを込めて頭を下げた」などと報道されています。

二つ目は、現地に応援に駆け付けた日本人サポーターの試合後の行動です。海外の記事では、「ピッチ上での激闘に世界各国のファンは感動したが、日本の良さはここからだった。試合終了を告げる笛とともに会場の日本サポーターは歓喜に満ち溢れていたがすぐに切り替えて、スタンドに落ちているゴミを次々と拾い上げゴミ袋に入れていった。日本のファンは興味深く尊敬に値する」と称賛されています。

こういった行動に興味をもった海外の記者が、日本サポーターの一人にインタビューしました。「あなたたちの行動は世界中が驚いています。なぜ、日本のファンは掃除をするのですか？」その問いに対して日本人はこう答えました。「子どもの頃から言われているのは、使う前より使った後をきれいにすること。それは当たり前。いつも感謝の気持ちをもつことを習ってきました。」これを聞いた記者は、「当たり前(ATARIMAE)、それは史上最高の言葉ですね。」と感銘を受けたということです。この他にも、日本代表が使用した後のロッカールームは、とてもきれいに清掃、整頓され、お礼のメッセージなども残されていましたことも話題になりました。

「お辞儀」「ゴミ拾い」「感謝のメッセージ」など、その行動の裏にあるのは、相手への思いやりや感謝の心、リスペクトです。日本では、家庭でのしつけや学校での教育などによって、これらの心を当たり前として育んできています。そういったことが世界では称賛を浴びるほどの行動として伝えられることに同じ日本人として誇りに思いました。

41 日間の夏休みが始まります。生徒には生活における当たり前の行動と共に、学習面でも自分にとっての当たり前の習慣を身に付けて、更に成長してくれることを願っています。



【お知らせ】学校の様子は下記 URL の学校ホームページでも随時紹介していきます。ぜひご覧ください。

(https://www.city.nakatsugawa.lg.jp/soshikikarasagasu/school/daiichi_jhs/index.html)

